



子ども会
開設の手引き



ひとりから
はじめる
子ども会

- 01 はじめに
- 02 大切にしたいこと

実践編

- 04 シンプルな子ども会をつくってみる
- 06 Step ① 企画を立てる
- 07 Step ② 案内をする
- 08 Step ③ 準備をする
- 09 Step ④ 子ども会当日
- 09 Step ⑤ 次回のために

参考編

- 10 いろいろな子ども会
- 12 お勤めと作法
- 14 法話
- 15 法話 - いのちのつながりについて考えてみる。
- 16 法話 - いのちの平等について考えてみる。
- 17 法話 - 会話をしながら考えてみる。
- 18 いろいろなゲーム
- 20 レクリエーションあれこれ
- 22 絵本の活用
- 24 紙芝居の活用



事例紹介

- 26 花まつり
- 27 夏休み子ども会
- 28 お勤め練習会
- 29 子ども報恩講
- 30 初参式
- 31 成人式
- 32 いろいろな子ども会
- 34 コラム

資料編

- 36 教材と参考図書の紹介
- 44 子どもの権利条約
- 45 あとがき

ひとりからはじめる 子ども会

子どもたちの居場所

たとえどんなに時代や社会が変わっても、子どもたちは、自分の居場所やつながりを求め続けています、とても真剣に…。それに応えるには、今あるお寺が、子どもたちの居場所としての「場」になればいいのです。私たちには、子ども会に対するイメージがあります。「大変なのでは」「難しいのでは」。しかし、子ども会開設の基本は、ひとりの「はじめよう」という思い立ちです。



ひとりからはじめる

大切にしたいことは、子ども会を「ひとりからはじめる」ということです。最初から大がかりな子ども会を目指すのではなく、私ひとりから無理なくはじめられる子ども会を目指してみましよう。そして、もうひとつは「ひとりとお出あう」ということです。たくさんの子どもたちを集めることのみを目指すのではなく、集まってくる一人ひとりの子どもとお出あうということを大切にしたいのです。キーワードは、「ひとりからはじめる」、そして「ひとりとお出あう」ということです。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・ 立教開宗八百年慶讃法要を縁として

親鸞聖人の800回忌(2061年)など、この教団の未来をイメージしてみます。「真宗大谷派は、子ども会活動が大変活発な教団」。そのような状況を是非とも作りだしていきたいと考えています。そのために、今問われているのは、今を生きる私たち一人ひとりの歩みです。子どもに寄り添い、子どもとともに考え、子どもとともに教えを聞く私や教団となるために…。「ひとりからはじめる子ども会」への歩みを、慶讃法要を縁としたはじめの一歩として、ご一緒に実践してみませんか。



不安に思うことは
たくさんあるかも
しれませんが、まずは
大切にしたいことを
確かめてみましょう。

子ども会をひとりからはじめるために
そして、ひとりの子どもと出会うために

大切にしたいこと

1

ひとりから はじめる

最初から大きなことを
考える必要はありません。
子ども会は私ひとりが
ちょっとやる気を出せば
はじめられます。

子ども会は大変なの
ではないか？

上手に続けて
いけるだろうか？

2

ひとりと出会う

大勢の子どもを集めることが
目的ではありません。
大切なのは、
「ひとりと出会う」ことです。

3

失敗なんて あたりまえ

特別な技術や経験がなくても
心配はいりません。
失敗なんてあたりまえです。
することに困ったら
他の子ども会の「真似」は基本です。
とにかく続けることが大切です。

子どもたちは
集まってくれるだろうか？

4

教え込まない

自分の出あえた言葉を紹介する。
 そこから法話がはじまります。
 子どもとともに遊び、
 ともに学んでいくことが大切なのです。
 子どもに何かを教え込もう、という
 力みは必要ありません。

法話はきちんと
できるだろうか？

子どもたちを
楽しませられるだろうか？

5

私が楽しむ

子どもを楽しませるために
 子ども会をするのでは長続きしません。
 はじめてみれば、そこに自分も楽しむ世界が
 用意されています。
 大事なことは、
 自分が楽しめるような子ども会を
 開くことです。

6

ともに遊ぶ

子どもたちは
 自分で遊びをつかっていくものです。
 無理にゲームを用意しなくても
 心配いりません。
 子どもとの時間をともに遊ぶことが
 基本です。

用意した遊びは
うまくいだろうか？

勤行はきちんと
できるだろうか？

7

ともに 手を合わせる

はじめから正信偈をお勤めすることは
 難しいかもしれませんが、
 「ちかい」の唱和や
 仏教讃歌を歌うのも良いでしょう。
 基本は、ともに仏さまにむかって
 手を合わせることです。

シンプルな子ども会をつくってみる

自分ひとりで
できるだろうか？

子どもが
集まってくれる
だろうか？



きっとそんな不安があることでしょう。

でもあなたひとりだからこそ、そして、子どもの人数が少ないからこそできる、
そんな子ども会のよさもあります。

自分ひとりなら、無理なく、お金もかけずにできます。

子どもの人数が少なければ、一人ひとりとの関わりが深まり、こまやかな対応ができます。

子ども会はそこに来てくれた子どもひとりとの出あいからはじまるのです。

あまり難しく考えずに、仏さまの前で手を合わせて、

正信偈をいっしょにお勤めしてくれる友だちをつくるつもりではじめてみてはどうでしょうか。

たとえ1回で終わってしまってもいいからやってみましょう。

たった1度でも子ども会をすることは、本当に大切なことではないでしょうか。

さあ、それでは実際に子ども会をはじめてみましょう。

Step ①

企画を立てる

どのような内容の子ども会にしたいのかなどのイメージをつくる。

P.06

Step ②

案内をする

記載事項、案内方法などを考え、実際につくって案内する。

P.07

Step ③

準備をする

配布品、必需品、便利品などを準備する。

P.08

Step ④

子ども会当日

緊張をほぐす。
こんな失敗にご注意!

P.09

Step ⑤

次回のために

次回のために当日の日程や子どもたちの様子などを記録しておく。

P.09

Step ① 企画を立てる

どのような内容の子ども会にしたいのかイメージを描いてみます。

日程案をつくる

子ども会の内容や日程を考える場合、本堂や境内地の規模、地域社会とお寺の関係など、地域によってまちまちです。それぞれの事情にあった無理のない企画を立てましょう。

あるお寺では、お勤めを行った後は、子どもたちが考えた遊びを中心に住職さんもいっしょに遊ぶというスタイルで運営しているそうです。毎回必ず子どもとこれだけは実践していきたい、これだけは大事にしていきたいということを、1つか2つ決めてはじめてはどうですか。例えば「必ず挨拶をする」とか「靴は必ずそろえる」とか。

イメージができれば、大雑把なものでもかまいませんから日程案をつくりましょう。

モデル(午前中1時間半の場合)

- 9:00 お勤め・お話
- 9:30 レクリエーション
(自己紹介、絵本、ゲーム等)
- 10:25 閉会のうた・次回案内
- 10:30 解散

どうしたらよいかわからないときは

- ④ 参考書を読む
- ④ 先輩や友人に相談する。 **イメージを膨らませる**
- ④ 子ども会を見学する。
- ④ 本山や教区で行われる子どものつどいにスタッフとして参加してみる。
(同朋ジュニア大会、真宗本願子ども奉仕団、教区子どものつどいなど)

こんな工夫も

- ④ 音楽が得意な人は、いろいろな仏教讃歌を取り入れたり、子どもたちの好きな歌を歌ってみる。
- ④ 正信偈の代わりに正信讃(『真宗大谷派勤行集』75頁参照)、三帰依(パーリ文)、「ちかい」を唱和してみる。
- ④ 聖典の言葉(意訳文)や詩の朗読を取り入れてみる

盛りだくさんのメニューを用意すると、それが負担になることもあります。お勤めだけでもよいかもしれません。

お勤めのプログラム一例

最初から正信偈をお勤めするのが難しい場合は、短い簡単な式次第から始めるとよいでしょう。

1. 総礼
2. 三帰依(パーリ文)など
3. 総礼

困ったときは

青少幼年センターにお尋ねください。また児童教化連盟という団体があります。児童教化連盟にはあなたと同じような仲間がたくさんいますから、いろいろな相談や情報交換などもできると思います。児童教化連盟に関することがらも、青少幼年センターにお尋ねください。



ちかい

わたくしたちは、ほとけのこどもになります。
わたくしたちは、ただしおしえをききます。
わたくしたちは、みんななかよくいたします。

Step ② 案内をする

子ども会をはじめのことをみんなに伝えましょう。
そのためには簡単なものでもよいので案内文をつくりましょう。

案内文に記載する事項

- ① 日時(集合時間と終了時間)
- ② 場所
- ③ 持ち物(念珠など)
- ④ 会費(必要な場合)

※子どもたちも読みやすいようにルビを打ちましょう。
※飲食をする場合はアレルギーの有無を聞きましょう。

ポイント

- ① 期日や時間はなるべく固定したほうが集まりやすい。
- ② 法事や月参りの際に子どもたちと相談して、無理のない時間設定ができれば理想的。この時点で子どもの名前を覚えて、お互い名前呼び合う関係ができれば最高。

子ども会案内文(例)



案内の方法

- ① ご門徒に郵送する。
- ② 法事や月参りで配る。
- ③ お寺の前にポスターを貼り、自由に案内文を持ち帰ることができるようにする。
- ④ 子どもの名前などがわかっている場合は、直接郵送する。
- ⑤ 知り合いの子どもたちに配ってもらう。

なお、

- ① 保護者の緊急連絡先
- ② 食べ物アレルギーの有無

などの項目は、会の内容に応じて、必要であれば参加申し込み書に盛り込んで下さい。メインになる行事の紹介や子ども会へかける願いなど、あなたから子どもたちに呼びかけるメッセージがあるとよいですね。

注意しましょう! (開催日を決めるとき)

- ① 地域や学校の行事と重ならないように。
- ② 夏休みの終わり頃は、子どもたちも宿題で忙しい。



*案内文等各種文書のサンプルは、青少年センターのホームページでダウンロードできます。

Step ③ 準備をする

当日に向けて準備をします。



子ども会の内容によって準備する内容は違ってきますが、勤行本、念珠・名札・救急箱などは用意しておくといよいでしょう。

そろえてあると便利なもの

CDプレイヤー・仏教讃歌のCD・絵本・DVDデッキ・テレビなど。プロジェクターなどは教務所で貸し出しをしている場合があります。

安全管理



事故防止・災害への備えについて

過敏になる必要はありませんが、子どもの安全の確保・健康状態には十分な配慮が必要です。

また、事故はスタッフの目が届かない時に起こることが多くあります。

大切なことは、事故への①配慮、②予測、③対応の3点です。

① 配慮…事前にすべきこと

- ④ 子どもに注意を呼びかける
- ④ いつも子どもたちみんなに目が届くよう一歩引くことも大切
- ④ 主催者以外のスタッフがいる場合の事故対応システムの把握
- ④ 救急箱の用意
- ④ 近隣病院の確認、事前のお願い（休日開催の場合は特に注意）
- ④ 保険の加入

② 予測…事故は起きるもの

- ④ 応急処置の技術
- ④ 危険箇所の確認
- ④ 子ども全体に目を配る

③ 対応…事故が起こった時に

- ④ 応急処置
- ④ 病院への連絡
- ④ 二次事故の回避
- ④ 保護者への連絡

また、事前に地域の避難場所、避難経路、AEDの設置場所などを確認しておきましょう。

健康状態の把握、衛生面の管理、食物アレルギー

子どもの健康状態を知ることも大切です。アレルギーや持病のある子、またその日の体調などを把握しておきましょう。

食事やお菓子作りといった調理をする場合には、食中毒予防のために食品の加熱処理、手洗いの励行等の衛生面への十分な配慮が必要です。

また食物アレルギーの有無について保護者から事前に聞き取りを行い、子どもがアレルギーのある食物を摂取しないように留意しましょう。なお、子どもが調理に参加する場合は、アレルギーのある食物に接触することのないように気をつけましょう。

さらに安全管理の観点から、子どもが年齢に応じて無理なく調理に参加できるような配慮も必要です。

保険加入のすすめ

万一に備えて保険に加入しておきましょう。「真宗大谷派寺院・教会施設賠償責任保険」への加入によっても担保されるものもありますし、「一日保険」「レクリエーション保険」「旅行保険」などもあります。専門の方、保険会社の方と相談し、子ども会の形態、行事内容にあった保険に加入してください。

Step ④ 子ども会当日

いよいよはじまります。

まずは…

子どもが顔を見せたら、挨拶からはじめましょう。仏さまの前で正座して、いっしょに手を合わせてお勤めしましょう。

緊張をほぐす

子どもが緊張している場合もありますが、あなた自身が緊張していませんか。あなたが緊張していると、子どもはますます緊張して居づらくなります。

お互いを知るためには話し合う時間が大切です。話したいことや聞いてみたいことなど、あなたから子どもに声をかけてみてください。子どものほうから何か話しかけてくるかもしれません。



はじまったら…

1時間を予定していたのに30分で終わってしまうこともあるでしょう。時間配分が当初の予定どおり進まないかもしれません。

そんなときは、子どものほうから遊びを提供してくれることもあります。子どもとしたいことを工夫してやってみるのもよいでしょう。

子どもの名前を間違えてしまった

間違えられた子どもはがっかりします。名札を使ったり、名前を覚えるゲーム(18ページ参照)をしてみるとよいでしょう。申し込み用紙がある場合はしっかりと「フリガナ」をふってもらいましょう。

Step ⑤ 次回のために

終了後に気がついたことをメモして次回に活かしましょう。

- ④ その日の日程の流れやお話の内容、子どもたちの様子を記録しておきましょう。
- ④ 次回までに買い揃えておくべきものを書き留めておきましょう。
- ④ 反省点なども書き留めておきましょう。
- ④ 寺報やホームページ、SNSなどで、開催の報告記事を掲載することも大切です。





いろいろな子ども会

子ども会は、いろいろなかたちではじめることができます。
状況に合わせて、やりやすいかたちを考えてみましょう。
時には子どもたちや保護者の方と相談しながら、みんなでいっしょに
子ども会を作っていく魅力も子ども会にはあります。



定期的な 子ども会

週に1回とか、月に1回とか、無理のない形で定期的を開催する子ども会です。定期的に子どもたちとふれあえるため、子どもたちとより親しく、より深いおつきあいができます。

- ④ 無理なく続けられそうな開催日を決めます。毎週〇曜日とか毎月第〇何曜日など。または曜日に決まりを作らなくても構いません。時間帯も午前・午後などいづれでもよいでしょう。
- ④ 子ども会に参加する子どもたちを募集してメンバー制にすることも考えられます。もちろん出入りは自由です。
- ④ プログラムはあまり盛りだくさんでなくても大丈夫。ゲームひとつでも子どもたちは長く遊んでいるものです。
- ④ お寺によっては1年間のカリキュラムを作成して運営しているところもあります。4月に開校、春には田植え、夏にはお寺で1泊、秋には収穫、冬にはおもちゃつき、3月には卒業式などです。

行事に あわせる 子ども会

お寺の年間行事にあわせて開設する子ども会です。たとえばお彼岸法要や報恩講などの行事の中に「子ども会」を設定するスタイルです。お荘厳や境内清掃も一緒にできて、保護者の参加も見込めるなどのメリットがあります。

- ④ 案内文は各行事案内に便乗することもできます。

行事の内容と例

彼岸会

お勤めや簡単なお話など。その後いっしょにお墓そうじをするとか...

おぼん

夏の日映画会を企画してみる。

報恩講

子ども報恩講としてアニメ上映やビンゴゲーム・子ども精進カレーのお斎など。

除夜の鐘

みんなでいっしょに除夜の鐘をついて、おしるこや甘酒など。

季節ごとの子ども会

春休みや夏休みなど、子どもたちの学校の休みを利用して開催する子ども会です。その季節ならではの企画をすることができます。お寺で1泊の子ども会なども可能です。長期休暇を利用して、思いっきり楽しむイベント型子ども会です。きっと子どもたちの記憶にも残ることでしょう。

- ④ この子ども会は、何人かにスタッフをお願いして行くことも考えられます。スタッフは大人に限らず、上級生の参加者にスタッフになってもらうこともよいでしょう。
- ④ 日程やメインになる催しや食事を出す場合はその内容を決めます。日程は、あまりきっちりした日程にならないように余裕を持たせるのがよいでしょう。
- ④ 子どもたちに手書きで案内ポスターを書いてもらい、それぞれの家の前に貼り出して参加者を募るといった広報のやり方もあります。

行事の内容と例

春休み

お花見や写生、お弁当を持ってハイキングなど。

夏休み

流しソーメン・バーベキュー・星空観察・スイカ割り・花火・うちわや風鈴作りなど。

冬休み

おもちつき・たこあげ・羽根つきなど。

雨天の場合は室内で

ビデオ上映・童話や絵本・室内ゲームなど。

その他の子ども会

子ども会の形式に決まりがあるわけではありません。「子ども会」というイメージが変われば、可能性は広がっていきます。

- ④ 日程や内容は自由に考えられます。思い込みがなくなれば、出来ることが見つかるかもしれません。
- ④ 対象となる子どもたちに制限はありません。出あいの機会はいろいろなところに存在しています。
- ④ 住職が主催しなければいけないわけではありません。頼れるところを探してみることから始めてみてはどうでしょうか。

行事の内容と例

寺子屋子ども会

宿題をする場所として本堂を開放する。

お泊り子ども会

夏休みなどを活用してお寺で宿泊。

里帰り子ども会

お盆や年末年始など、里帰りの時期に企画してみる。

絵本ではじめる

絵本を使った子どもたちとのコミュニケーション。

門徒さんとはじめる

協力してくださる方を頼る。

一緒にはじめる

近隣寺院や地域の子ども会との共催。
⇒32、33ページ参照

会作りにこだわらない子ども会

日常の法務、メール相談など。
⇒34、35ページ参照

お勤めと作法

地域によっては、正信偈のお勤めだけで、子ども会を長年続けているようなところもあります。また、集まってくる子どもが、必ずしもご門徒の家の子どもばかりではないという地域もあります。こうしたお寺を取り巻く地域の状況などを踏まえて、お勤めの式次第なども工夫してください。



勤行

できれば正信偈は子どもたちに覚えてほしいものです。でも、気負って教える必要はありません。子どもたちは数回いつしよにお勤めするだけで覚えてしまいます。調声(ちょうしょう)や鑿役(きんやく)も順番で行ってもらおうとよいでしょう。

練習の際は、輪になってお互いの顔が見えるようにして行うのも効果的です。

また、勤行本を畳の上に直に置かないということをとおして、教えの大切さも伝えましょう。

ちかい

みんなで、「ちかい」を唱和するのもよいでしょう。子どもたちが自ら声を出すことによって感じることもあると思います。

(「ちかい」は6ページ参照)

讃歌

「真宗宗歌」、「恩徳讃」、「みほとけは」などの仏教讃歌を取り入れるのもよいでしょう。カセットやCDを利用する方法もあります。(39ページ参照)

合掌

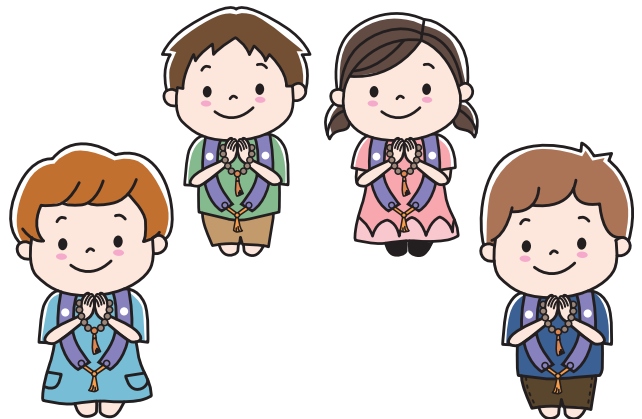
仏さまの前に座って念珠を両手にとおし、房が下になるようにして、みぞおちのあたりで合掌し、「南無阿弥陀仏」と称えます。

頭礼 (ずらい)

本尊のある場所に入入りするときは頭礼をします。

座り方 の工夫

整列させたり、年齢や男女で分けたりせず、子どもたちにまかせてみるのもひとつの方法です。人数が多いときは班ごとに座ってもらうのもよいでしょう。背筋を伸ばして正座をした姿はとてもきれいです。足のしびれをとる工夫を伝授してあげてください。正座のできない子どものためにイスなども用意しましょう。



法話



次に、どのように法話の時間を持てばよいか考えてみたいと思います。
子どもたちと一緒に私も仏の教えを聞かせていただくということを大事にして、
あまり難しく考えすぎないようにしましょう。

お話は短くても印象に残るものです。
時間は長くても10分を目安にしましょう。

仏教用語を無理に使わなくても構いません。
易しい言葉で仏の教えを表現してみましょう。



法話の時間が持てなくてもよいでしょう。
子どもたちとの会話が法話の時間の代わりになることもあります。

絵本や紙芝居を活用することもできます。
⇒22～25ページ参照
リーフレットを子どもたちと一緒に読むのもよいでしょう。
⇒36ページ参照



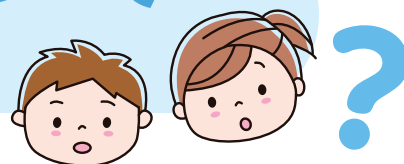
話したいことや聞いてほしいこと、
そして子どもたちから聞きたいことがあった時など、
ごく自然に話してみるのもよいのではないのでしょうか。

定期的な子ども会では、
月ごとのテーマを決めると話しやすいのではないのでしょうか。
毎年同じ話になってもよいでしょう。
聞いた話を覚えていてくれれば嬉しさも感じます。

- 例：1月 修正会
- 2月 聖徳太子
- 3月 お彼岸
- 4月 花まつり など



いのちのつながりについて 考えてみる。



はじめり

「わたし」「ぼく」「おれ」「うち」、私たちは自分のことを、いろんなふうに言います。でも、「わたし」って何でしょう。

展開

「わたし」は、お父さんやお母さんから見ると、娘や、息子です。「わたし」は、おもちゃ屋さんに行くと、お客さんになります。「わたし」は、外国の人から見ると、日本の子どもになります。「わたし」は、大勢の中に入れば、大勢の中のひとりです。

(谷川俊太郎『わたし』より)

「わたし」というのは、いろんな場面で、いろいろに変化するのです。その不思議な「わたし」は、相手がいて、初めて「わたし」となるのです。ひとりぼっちだったら、「わたし」とも思わないかもしれません。

では、「わたしのいのち」って何でしょう？

心臓が「わたしのいのち」でしょうか？

脳が「わたしのいのち」でしょうか？

よく考えてみると、脳や心臓だけで私たちは生きているわけではありません。何も食べなければ、私たちは生きられません。その食べ物は、みんな自然から生まれてきます。そして、多くの人の手をへて、私たちの食べ物になります。

こんなふうに考えると、食べ物や空気や土や光など自然全体が、「わたしのいのち」を支えていることになります。ですから、自然全体が「わたしのいのち」なのです。自然や人、世界全体とつながって「わたし」はあるのです。

むすび

「わたし」は、私が考えるよりもずっとずっと広く深いものです。それなのに私たちは、自然を汚したり壊すことを、平気でしています。いろんな人との関係を「わたし」としているのに、無視したり意地悪をしたりして、関係を壊すこともあります。

私たちは「わたし」を大事にし、大切にしたいと思います。そのために、「わたし」の広さと深さを学び続ける必要があります。



参考

わたし

谷川俊太郎 文 / 長新太 絵 (福音館書店)

いのちの平等について 考えてみる。



はじめり

昔むかし、インドの国にひとりの王様がいました。ある日のこと、散歩をしていた王様のふところに1羽の鳩が飛びこんできました。

鳩は大きなワシに追われていたのです。

展開

王様は鳩を助けようと思ってふところにかくしました。そこへワシがあらわれてせがみました。

「エサをかえせ!」と。王様が「私はあらゆる命を大切にしたいので鳩を渡すわけにはいかん」と言うと、ワシも「ではその鳩をエサにしないと生きていけないオレの命はどうなってもよいのか?」とせまりました。

王様は「それもそうだ」と思い、ワシと鳩どちらの命も救いたいので自分の股(また)の肉を切りとってワシにやろうとしました。ところがワシは「それじゃ鳩と同じ重さだけほしいもんだ」と言うのです。

そこで秤(はかり)の片方に鳩をのせ、もう片方に自分の肉をのせると、鳩のほうが重たくなるのです。そこで王様は身体(からだ)の肉を次々と切っけていってのですが、それでもなお鳩のほうが重いのです。王様は苦しみながらもついに自分の全身を秤(はかり)にのせました。そのときはじめて鳩と同じ重さになったのです。

(「ジャータカ物語」より)

むすび

この物語はいったい何を言おうとしているのでしょうか?まず、誰かが助けを求めてきたなら、私(あなた)ならどうするかということです。無関心でいるのか、本気で関わるのか。次に誰かを助けることが、他の誰かを見捨てることになるとしたら、どうするかということです。そして、鳩の命と人間の命はどちらが重いのか、と考えてみましょう。私たちは、人間の命を生かすためなら他のあらゆる命—牛や豚、魚や鳥、野菜などの命—を殺してもかまわない、と思い込んでいるのではないのでしょうか。あらゆる「いのち」は平等なのだ、ということをお話は語っているようです。あなたは、どう感じましたか。

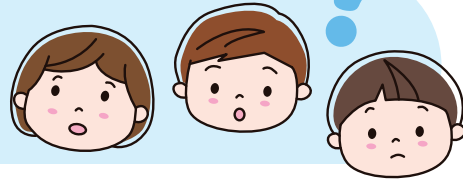


参考

鳩と王様

「ジャータカ物語」

会話をしながら 考えてみる。



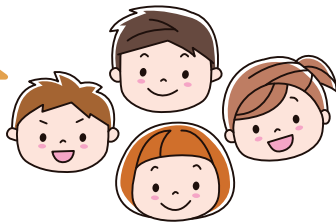
ある子ども会で実際にあった事例をもとに紹介します。
子どもたちの思いがけない応答から
教えられることもあります。

はじまり



みんなはいつも
「ごめんなさい」や「ありがとう」
を言っているかな

うん、言ってる!

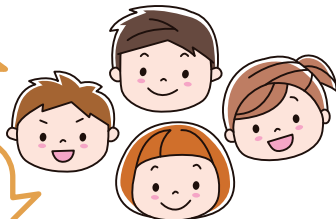


展開



学校の先生や友達だけでなく、
ちゃんと家族にも言ってるかい?

うん、言ってる!



おっちゃんも
ちゃんと言ってる?



えっ!?.....

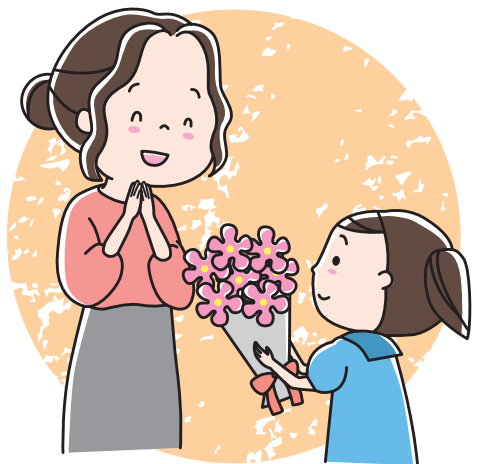
むすび



そうだね、考えてみると、
お父さん、お母さんにちゃん
と「ありがとう」も「ごめんなさい」
も言えてなかったよ。

仏さまは、「ありがとうやごめんなさい
を言えずに生きているものは、牛や
馬と同じだよ。人として生きていると
言えないよ」と悲しんでおられるんだ
よね。

おっちゃんこそ、大事なことを忘れ
ちゃってたよ。教えてくれてありがと
うね。



いろいろなゲーム

ゲームには子どもたちの緊張をほぐすはたらきがあります。

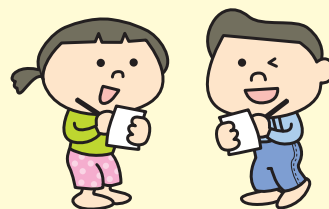
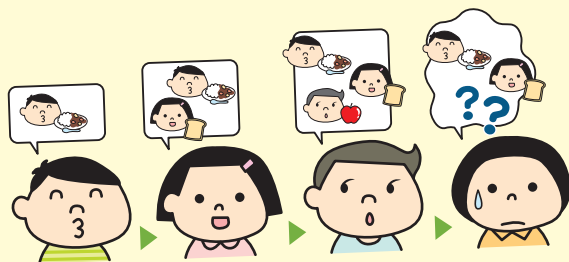
勝ち負けを争うゲームもありますが、勝敗が子どもたちの優劣にならないように気をつけ、勝っても負けても楽しめるようにしましょう。

子どもたちのあいだで流行っている遊びを聞いて、そのゲームをやってみるのもよいでしょう。

名前を覚えるゲーム

すきな食べ物のは？

- はじめに円になって座る。
- 最初の人に「ぼくはカレーが好きなヤマダタロウです」と好きな食べ物の次に自分の名前を言ってもらおう。
- 隣の人は「わたしはカレーが好きなヤマダタロウ君となりのパンが好きなスズキユミです」と順番に前の人が言ったことを反復していく。
- 最後の人は覚えることが大変なので、リーダーや他の子がヒントをあげる。
- 6～7人が目安だが、大人数でも工夫次第で行える。



おなまえは？

- 10～15人の名前を書ける用紙とペンを人数分用意する。
- リーダーの「スタート」の声でランダムに相手を見つけて名前を聞き、用紙の左半分に順に名前を記録していく。
- 用紙に記録した名前の数が、あらかじめリーダーに指示された所定の人数になったらリーダーに知らせる。
- 次に、先ほど手持ちの用紙に記入した名前の子を探し、探し当てたら先ほど名前を記録した右側にサインをもらい、握手をして別れる。
- なかなか、記入した相手がみつけれない子をリーダーは手助けする。

人数が少なくてもできるゲーム、1対1でできるゲーム

顔でするジャンケン

- 「パー」は口を開く。
- 「グー」は口をつぐむ。
- 「チョキ」は舌をだす。



リーダーゲーム

手をたたきましょう

- 「私と同じように手をたたいてください」と手をたたく。
- たたくの急にやめても続けて手をたたいている子どもがいる。手をたたいたり、やめたりをくりかえし行う。
- 「3」とか「5」というように数を決めて、その数だけ手をたたいたり、「タコの足の数」や「イカの足の数」など、色々な数のものを言ってもおもしろい。



同じように
手を
たたけるかな？

ちょうど1分かな…

お話などの前、
静かにさせたい
時に便利。



1分間ゲーム

- 全員に目を閉じてもらう。
 - 合図をした時から1分間たったと思う人は静かに手をあげてもらおう。
 - ちょうど1分で手をあげた人を発表したり、1番早く手をあげた人のタイムを発表するのもよい。
- 全員立たせて、1分たったと思う人は静かに座るようにするのもよい。

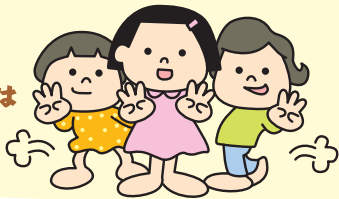
全体ゲーム

何回鳴ったかな？

班分けに
便利

- リーダーが2回以上の数で手をたたく。
- 「スタート」の声でたたいた数の人数でグループを作る。
- 数によってはあまる子がでてくるので、色々な数で何回か行う。
- 最後の回に、班にしたい人数にして終わる。

例えば、
3回手を
たたいた時は
3人組を
つくってね



ジャンケンチャンピオン

大きな輪を
作りたい時に便利

- 合図と同時に誰とでもよいからジャンケンをする。
- 負けた人は勝った人の後ろにつき、勝った人はまた他の組とジャンケンをする。
- 負けた人や負けた組は勝った組の後ろにつき、だんだんと人数が増えていく。
- 最後には多数の人をひきつけた2組のチャンピオン同士がジャンケンをし、勝った人がジャンケンチャンピオンになる。



「ひとりからはじめる子ども会 ゲーム集」

参考

青少幼年センターでは、カード式のゲーム集も用意しております。親しみやすい45通りのゲームを掲載しています。ポケットにも入る手のひらサイズですので、このカードを持ったままゲームを行うことができます。ぜひお寺での子ども会でご活用ください。

【価 格】770円(税込) 【申込先】東本願寺出版

レクリエーション あれこれ



少しの工夫でできる遊びを紹介します。
手間をかけずにできる範囲で、子どもたちと楽しむ時間を作ってみましょう。

美味しく食べよう!

子どもと一緒に料理を作ることが、ひとつの大きなイベントになります。簡単にできるカレーライス・ホットケーキ・スイーツ・ポテト・白玉団子・ピザなど。

精進カレー



白玉団子
ぜんざい

ポイントハイク・散歩

いくつかの通過点(ポイント)を設定して、近所の街を探検してみよう! 宝探しのつもりでイラストを書いたカードなどを隠しておいても楽しい。

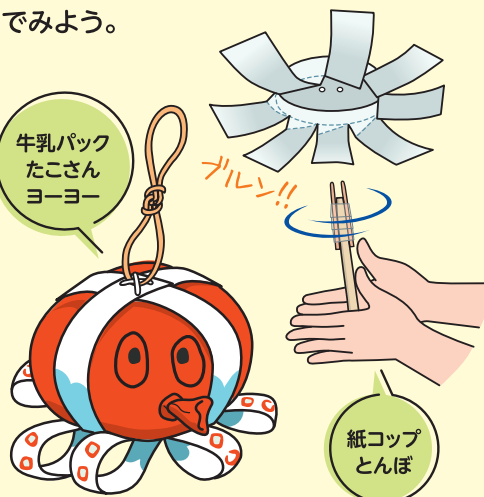
宝探し
ゲーム



工作いろいろ

厚紙を使った紙飛行機、ダンボールの家造り、紙コップや牛乳パックで作るおもちゃなど、手に入りやすい材料で楽しんでみよう。

牛乳パック
たこさん
ヨーヨー



紙コップ
とんぼ

お寺の行事を準備しよう!

手作りの内敷・箱菓子のお華束・夜の参道を照らす
キャンドルづくり、お齋で使う箸の箸袋づくりなど。



季節の行事を楽しもう!

書き初め・雪遊び(かまくら作り・雪合戦)・花見・ピク
ニック・バーベキュー・水遊び・流しそうめん・スイカ
割り・海水浴・焼き芋作り・どんぐり拾いなど。

少し慣れてきて余裕が出てきたら、得意な分野を
とことん極めて楽しんでもよいかもしれませんね。
また、こちらが用意した遊びばかりではなく、子ども
たちが自主的に遊びを考えていくような雰囲気
作りも大切です。

流しそうめん



参考

青少幼年センター子ども会情報紙『ひとりから』より
『ひとりからはじめるイベントレシピ』

※青少幼年センターHPからダウンロードできます。

東本願寺 青少幼年センター

検索



『かがくのとものもと』(福音館書店)2500円+税

『しゃぼんだまとあそぼう!』

杉山弘之・杉山輝行 文と構成、吉村則人 写真、平野恵理子 絵
(福音館書店)900円+税

『遊び・ゲームワンダーランド』奥田靖二 編著

(いかだ社)1800円+税

絵本の活用

子ども会やその他行事などで、絵本を活用することを考えてみましょう。絵本を読むということは、子どもたちといっしょにそのお話の世界を旅し、いろいろな体験を共にすることです。絵本を通して子どもたちとつながる時間を楽しんでみましょう。



絵本の選び方のポイント

①ベストセラーよりロングセラー

選書に迷ったら、まずはロングセラー作品から読んでみましょう。絵本の奥付(裏表紙の前ページ)に、初版の年月、版数が書かれています。版を重ねているものは、長年人々に読み継がれてきた作品ということを示します。

②魅力的な絵でお話を体感する

子どもは大人よりもずっとしっかりと絵を見ています。細かいところまで描かれている絵、パッと目に飛び込んでくる絵など、絵によってお話が膨らんでくるようなものがよいでしょう。

③絵に添った文章が具体的で簡潔に書かれている

書き出しが具体的で、耳で聞いて目に見えるような文章は、子どもの心にスーッと入っていきます。言葉の選びがよい文章は、何回読んであげても心地よいものです。

④選書を楽しもう

年齢や状況、人数やプログラムに合わせ、文章の長さ・絵本の大きさ・季節の配慮などをしましょう。たくさんの絵本がありますから、選書を楽しみながらどんどんチャレンジしてみてください。



絵本の読み聞かせのポイント

①説明をしない

読み手がむやみに絵本の内容を説明したり、感想を求めすぎないようにしましょう。子どもが豊かに想像することを奪ってしまうからです。

②淡々と読む

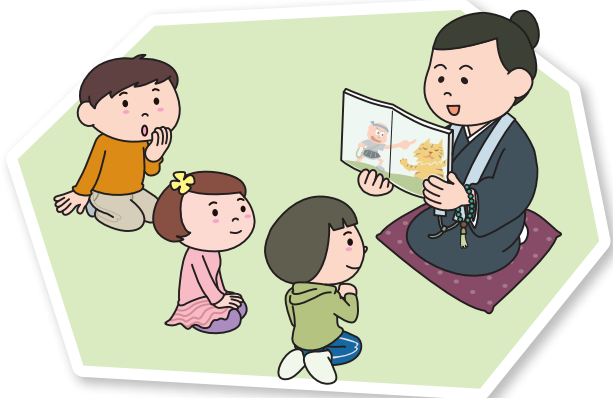
芝居っ気を出しすぎず、また、感情は自然に出すくらいに抑えて読んでみましょう。おちついて淡々と読むことで、子どもたちも絵本に入り込みお話の世界を楽しめます。

③コメントを添える場合は

コメントをする場合は、子どもたちに押し付けにならない形で、なぜこの絵本を選んだのか、自分が絵本を読んで感じたことを一言添える程度でよいでしょう。

④読み手も楽しみましょう

間違いなく上手に読めるかと不安になるより、子どもたちと一緒に楽しむつもりで読みましょう。絵本の力を信頼して、一緒に絵本の世界に浸ってみましょう。





お寺の中に絵本コーナーを!

子どもたちが絵本や物語と自由に出会える場所がお寺の中に開かれることは、とても素敵なことです。お寺の中にそのようなスペースを作ってみませんか?

絵本の紹介



おはなし絵本
ワニくんのおおきなあし
 みやざきひろかず 作・絵 (BL出版)
 「ぼくのあし、どういうわけかみんなよりずっとおおきい…」と落ち込むワニくん。小さくするためにいろいろやってみてはみるものの、そううまくはいかない。でもある日、気がつくのです。ワニくんの大きなあしが、そのままどっともすばらしいってことに。



昔話絵本
だいくとおにろく
 松居直 再話 / 赤羽末吉 画 (福音館書店)
 村人から橋をかけてほしいとたのまれた大工さん。引き受けてみたものの心配になって川へ行ってみると、そこにはなんと鬼が! 大工さんはどうなるの?! 大工さんの表情や鬼とのやり取りがユーモラスに描かれているので、誰かに読んでもらおうとより楽しくなりますよ。



自然絵本
木
 佐藤忠良 画 / 木島始 文 (福音館書店)
 みずを吸い込む根っこ、空に向かって風の歌を聞く枝…。木のいのちは力強くわたしたちに語りかけています。「おおきなかぶ」の絵を描いた佐藤忠良さんの、すばらしい木のデッサンも堪能してください。



仏教の絵本
絵本 親鸞聖人
 小川一乗 文 / 畠中光享 絵 (東本願寺出版)
 阿弥陀さまは「なむあみだぶつ」ととなえたならば、だれでも、ほとけさまになれるのですと、約束してくださいました。親鸞さまは、その約束を信じて「なむあみだぶつ」ととなえつつ、阿弥陀さまのところに、ほとけさまとなってかえっていかれました。



赤ちゃん絵本
がたんごとんがたんごとん
 安西水丸 さく (福音館書店)
 がたんごとんがたんごとんと、まっ黒な汽車がやってきます。駅ごとにいろいろなお客さんが待っていて、「のせてくださいー!」と言って乗り込みます。みんなをのせて汽車は「がたんごとん」と到着駅へ。そこは……。『がたんごとん』のくり返しのリズムがとても楽しい作品です。



幼児絵本
たまごのあかちゃん
 神沢利子 作 / 柳生弦一郎 絵 (福音館書店)
 いろんないろ・かたちのたまごから、なんのあかちゃんがうまれてくるかな? なぎごえといっしょに、リズムよくよんでみてください。ほら、みーんなかわいいあかちゃんが出てくるよ!

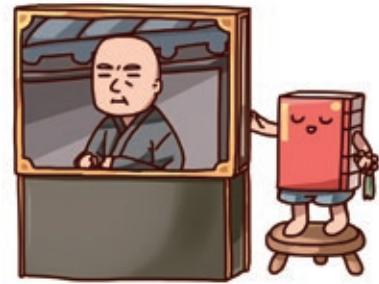


戦争・平和の絵本
おとうさんのちず
 ユリ・シェルヴィッツ 作・絵 / さくまゆみこ 訳 (あすなろ書房)
 戦火に追われ、その日の食料にも困るほどのつらい日々。パンを買いに行ったはずのお父さんは、なんと一枚の世界地図を買ってきた。ぼくはその地図を眺めながらどこにでも想像の世界に飛んでいくのだった。戦争を絶望だけでは終わらせない、珠玉の一話。



科学絵本
とりになったきょうりゅうのはなし
 大島英太郎 さく (福音館書店)
 そらをとぶとりたちは、むかしはきょうりゅうだった…。じめんをあるいていた小さいきょうりゅうたちは、どのように「しんか」してそらをとぶようになったのかな。ながいながいじかんをかけて、すがたをかえていったとりたちのれきしをみてみよう。

紙芝居の活用



紙芝居は絵本と違い、読んで字のごとく「芝居」です。
演技手は一つの舞台を作り上げる気持ちで演じてみてください。
声色を変えたり感情を込めて読んだり、物語を楽しんで舞台を盛り上げてみてください。
子どもたちと一緒に参加できる参加型の紙芝居もあります。

紙芝居演出のポイント

①紙芝居舞台を使ってみよう!

さあさあ、何がはじまるのかな?
とワクワクドキドキ!
子どもたちの視線が一気に集まります。

②お芝居してみよう!

キャラクターごとに声色を変えたり、
読むスピード、紙を引くタイミングに変化をつけたり、
みなさん独自の演出方法で
子どもたちと楽しんでみましょう。

③下読みをしておこう!

必ず下読みをして、場面が順番通りになっているか
確かめておくことが大切です。

おすすめ! 紙芝居舞台

劇場の縮小版として使うことにより、
子どもたちはお話の世界により集中し、
楽しむことができます。

紙芝居舞台 (童心社製)



市販されているほとんどの紙芝居が
ちょうど入るサイズです。

参考 図書

『演じてみようつくってみよう紙芝居』 右手和子・やべみつり 著/長野ヒデ子 編・著 (石風社)

『紙芝居の演じ方Q&A』 まついのりこ 著 (童心社)

おすすめの紙芝居

しんらんさまとやまぶしべんねん

市川真由美 脚本、山本孝 絵、
真宗大谷派青少年センター 企画・制作



報恩講で拝読される『御伝鈔』に出てくる親鸞聖人と弁円(明法坊)の出あいのエピソードが紙芝居になりました。人と人が響き合い、通じ合う世界があるということを伝える物語。

りゅうじん池としんらんさま

市川真由美 脚本、マスリラ 絵、
真宗大谷派青少年センター 企画・制作



親鸞聖人が生きられた時代、人々は日照り続きで水不足に苦しんでいました。龍神にこびへつらっても怖れても何も変わらない。起こる事態を見据えて、協力し支え合おうとのメッセージが込められた物語です。

しんらんさまと白い道

川北亮司 脚本、市居みか 絵、
真宗大谷派青少年センター 企画・制作



二河白道の喩えが紙芝居になりました。それは、意地悪な甚右工門が見た夢…。絶体絶命、怪物たちに追いかけてられてピンチ。そのとき聞こえてきた声、「白い道を進みなさい。心を決めてまっすぐに」。そこには、すでにその道を歩む親鸞聖人の姿がありました。

あみださまのたんごぶ

村上しいこ 脚本、かつらこ 絵、
真宗大谷派青少年センター 企画・制作



唯円が親鸞聖人の教えを聞くに至った経緯を伝える伝説「報仏寺の身代わり名号」をモチーフにした物語。ある日、暴れん坊の権太が、念仏おばばの家に忍び込んで盗みをはたらこうとしたら、とんでもないことが起こって…。

たべられたやまんば

松谷みよ子 脚本、二俣英五郎 絵（童心社）



和尚さんのいっつけを聞かずに山へ行った小僧さんが、おいしそうな栗につられてやまんばの家に行ってしまう。あわや食べられるという時に、和尚さんが助けてくれたのです。手に汗にぎる昔話を演じてください。

おしゃかさま (全4巻)

諸橋精光 脚本・絵（鈴木出版）



「おたんじょう」「四つの門」「おさとり」「ねはん」の四巻にわたり、おしゃかさまの一生が魅力的な絵とシンプルな脚本で味わえる作品です。花祭りなどの行事にももちろんですが、仏教伝道の教材としてもいつでも活用できます。

ふたりのパンタカ

渡邊愛子 文、楠章子 監修、畠中光亨 絵



遠い昔のインドで、お釈迦様のお弟子となった二人の兄弟のお話です。賢い兄は熱心に努力したのですぐに立派なお弟子になりましたが、物覚えが悪く修行についていけない弟の愚かさにあきれて、弟をひそかに家へ帰そうとします。するとお釈迦様は…。宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業記念作品。

おおきくおおきくおおきなあれ

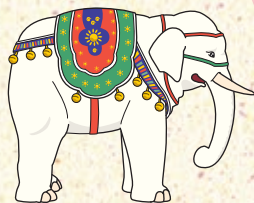
まついのりこ 脚本・絵（童心社）



観客と楽しむ参加型の紙芝居。画面に小さく描かれるもの(いきもの)に皆で「おおきくおおきくおおきなあれ」と声をかけます。すると少しずつ色んなものが大きくなっていきます。最後に大きくしたものは何でしょうか。

事例紹介

花まつり



◆ はじめたきっかけ

学生時代、大谷大学内にあった「大阪日校の会」に所属していたこと。卒業後住職となり、自然と子ども会活動を始めた。ご門徒が勤めていたことがご縁となり近所の保育園の子どもたちが園の行事として参詣に来るようになり、現在は100名程の参詣がある。



【プログラム】(13:00~14:00)

- ① 「お花をささげましょう・お光をささげましょう・甘茶をささげましょう」と唱和する
- ② 法話(天上天下唯我独尊、一人ひとりかけがえのないのちです。
スペアタイヤはありませんという話を毎年する)
- ③ ゲーム(全体)
- ④ 紙芝居(仏典一巻・アンパンマン一巻)
- ⑤ 手品やゲーム
- ⑥ 灌仏
- ⑦ お供養(お菓子)を配る
- ⑧ 一人ずつ鐘をつく

こだわりは特にないが、毎年同じことをしていても、子どもたちは楽しむということを実感している。

失敗談

いつもたくさんの子どもたちが来ていたのに、突然4・5人になったことがある。原因は学校などの予定を把握せずに開催日を決めていたこと。それ以来情報収集には気を配り、花まつりの開催日も保育園と相談して決めている。

広報

チラシを作成している。日頃から持ち歩き、子どもを見かけたら手渡ししている。

であい

全く言うことを聞かないけれど、毎回必ず参加する小2の男の子がいた。座れと言ったら立つ、立てと言ったら座るような子で、いつも私を茶化してくる。もう来てほしくないと思ったこともあったが、ある時道でばったり学校帰りのその子に会い「おっちゃん!」と声をかけられた。なぜか思わず彼を抱きしめた。その後、彼は茶化することがなくなり、子ども会では率先して行動するようになった。後から知ったが彼は母親と二人で生活していて、家に帰ってもいつも一人だったそう。自分にとっては些細なことでも、子どもの振る舞いが変わることがあるのだなと印象に残っている。

夏休みの子ども会

～子どもたちが自由に形作る場所～

◆ 子どもの頃から教えることを願って

1983年、お寺に会館が建てられたことをきっかけにして前住職が始めた子ども会は、夏休み期間中の一週間を使って開催されている。保育所がなかった時代から、お寺が子どもを預かっていたという背景もあり、現代でも地域の子どもの居場所が要望されていたということもきっかけになっている。

現住職が引き継ぎ、地域の方々と協力しながら毎年開催をし、地元の小学生を中心に20名ほどが集まる。



そば打ちの様子

◆ 枠組みを作りすぎない

子ども会の日程で決まっているのは、一緒に同朋奉讃のお勤めをすることだけ。その後は子どもたちがそれぞれに宿題をし、終わった子は工作をしたり外で遊んだりして時間を過ごす。日によっては、近所の方が紙芝居などの催し物を提供してくださったり、そば打ちの体験をさせてくださることもあるそうだ。最終日前日の夜は、子どもが各自持ち寄っての花火大会が恒例となっている。

「念珠作りやあやとりなど、ちょっとしたものを用意しているが、子どもたちが言い出すまではこちらから勧めることはしない」と住職は語り、子どもの主体性を重んじる様子が感じられる。



近隣の方による紙芝居の様子

【催し物内容】

- 念珠作り
- 図画工作
- バルーンアート
- 紙芝居
- 手品
- そば打ち
- 花火 など

住職さんの声

点数をつけられないことが子どもたちにとっては喜びになっているようです。泣いてしまった子が、次の日にちゃんとまた来てくれているのを見ると、子どもたちにとっての大事な場所になっているんだと感じます。

Point

- 呼びかけは案内チラシ。
- 用意しすぎないことで失敗は少なくなる。
- 子どもたちは自分で楽しみを見つける。
- 子ども会に来てくれた子が、家族と一緒に来参りしてくれる。

お勤め練習会

～夏休みのラジオ体操の後にそのまま本堂へ～

地区の子ども会主催のラジオ体操の後に、そのまま本堂へあがってお勤めの練習会を行っている。

朝ごはん弁当!

◆ 練習内容

正信偈・三淘・三首引き。練習後、たまに紙芝居を行う。

短冊に正信偈の一句を書いてもらい、本堂に掲示している。

◆ おさらい会

「おさらい会」として、夏休みの後半に、子ども会を開催している。

プログラム:清掃奉仕・お勤め・ゲーム(教区児童教化連盟が担当)・昼食(カレー)

◆ 朝ごはん弁当

月に一回開催している子ども会に来ている地区外の子どもたちも、ラジオ体操から参加している。その子たちは遠方で朝が早いので、朝ごはんを弁当で持参し、練習会終了後に本堂で食べている。それを見ていた地区の子が羨ましがって、地区の子も朝ごはん弁当を持ってくるようになった。

.....
同朋奉讃でのお勤めが多い地域だが、ラジオ体操を主催している地域のお勤めが三淘・三首引きなので、練習会でもそうしている。

お齋をいただいて、お寺から学校へ!

◆ 練習内容

正信偈・同朋奉讃の練習、その後DVD鑑賞(日本昔話を一話ずつ)ラジオ体操の期間が短い為、お勤めの練習会だけの日も設けている。

◆ 広報

学校の一学期終業式の日に通学路に立って子どもたちに手渡しでチラシを配っている。また、地区外の子どもの保護者にLINEでお知らせをしている。

◆ 時には…

かつては三淘・六首引きを練習していたが、ラジオ体操の期間が短くなったことと、子どもたちの様子から同朋奉讃になった。日頃のお参りは三淘・六首引きの為、参加している子どもたちの中に、身内が亡くなり七日参りが勤まっている子がいる時など機会があればみんなで三淘・六首引きを練習することもある。

◆ 報恩講

報恩講最終日のお朝事で子どもたちが外陣に出仕をする。お勤めは同朋奉讃。お朝事後、子どもたちはお寺でお齋をいただいて、そのまま登校する。

ご門徒の声

お勤めの練習会があることで、お正月やお盆には子どもたちが調声をしている家がある。ご門徒からは大変喜ばれているが、「同朋奉讃じゃなくて三淘・六首引きだったらもっといいのに」という声があり、どうしていか葛藤がある。

願い

お寺が居場所になってほしいということが一番の願い。練習を嫌がってしない子もいるが、そうであっても居ることができるような場所になるように心掛けている。



子ども報恩講

◆ 周りに励まされて

11月上旬の報恩講前の休日に子ども報恩講を開催しています。始めたきっかけは、教区児連のサポートやその仲間からの励まし。他のお寺の子ども会が羨ましくて始めました。当初はお互いがはじめての状態でした。最初は猫のようでしたが、親同士の交流も深まり場慣れしてきたせいか、にぎやかになってきました。



親子で参加している様子

【プログラム】

- ① お勤め(正信偈同朋奉讃)
- ② 紙芝居
(東本願寺出版発行の紙芝居4作を毎年順番に)
- ③ 法話
- ④ 手作り念珠づくり
- ⑤ ガチャガチャタイム
- ⑥ 恩徳讃

※お齋をいただく年もあります。



念珠づくり

若院さんの こだわり

- 少人数を活かし、ひとりひとりの子どもと接することを大事に。
- 出席スタンプの数によって若坊守さん手製の念珠袋などをプレゼント。
- お寺に関わったことのない子のために、当たり前に使ってきた用語をできるだけかたんに言い換えてみる。

きれいな
おじゆずができて
うれしい!

たいせつにします!
(子どもたちの声)

失敗しちゃった なあ...

つつい小さい子を優先してしまうので、大きい子がヤキモチをやいてしまいました。年齢層が広いとなかなか難しいところもありますね。

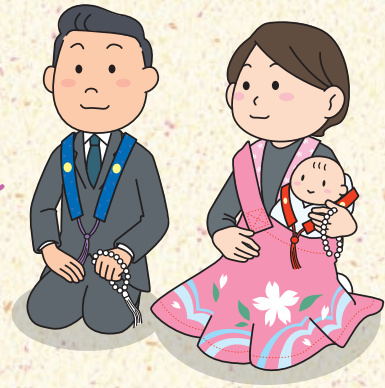


こうやって アピールしてます

広報は主に寺報や寺のHP、SNSなどで一日の様子を発信。また、若院さんや若坊守さんのお知り合いにも直接お知らせ。

初参式

～「つながり」を感じられる仏事として～



◆ ご門徒、地域の方と共に勤める

4月の第一日曜日、午後からの花まつりをひかえ荘厳が整えられた本堂で午前中に勤められる初参式。毎年数組の家族が誕生児を連れて参拝している。手伝いをしてくださる世話方の皆さんも一緒に皆で正信偈をお勤めし、誕生の意義を確かめ合う場となっている。

◆ 写真がつなげる

堂内には、参詣席を囲むように多数の写真が掲示されている。それぞれの年号が記された写真には、小さな赤ちゃんを抱いた保護者の方の姿が並んでいる。先代の住職さんが始められ50年以上毎年勤められている初参式では、必ず集合写真を撮影し堂内に掲示することになっている。お盆やお正月にお寺にお参りされ、「あなたがここに写っているんだよ」と語り合う家族の様子も度々みられるそうだ。成長して大きくなってから「願われている自分」に出会う機会にもなっている。

◆ 世代を超えてつながる

長く続けていると、生まれたときに誕生児として参拝された方が親になり、生まれた子を連れて参拝されることもある。若い世代の方にとっても、お寺を身近に感じてもらえる行事であると思う。



【日程】(10:00～11:00)

- ① 真宗宗歌
- ② 正信偈同朋奉讃 焼香
- ③ 住職法話
- ④ 記念写真撮影

住職さんの声

子どもにとっても、親にとっても「誕生」という大きな出来事を縁として真宗の教えに触れることを大事にしたいと思っています。

Point

- ご門徒さんに手伝ってもらおう。
- 他の行事とあわせればやりやすい。
- 例年の行事になれば続けやすい。
- 自分や友人の子など、近い関係をきっかけに。

- 誕生児念珠
- 勤行本(和綴じ赤本)
- ハンカチや靴下等
- 誕生についての冊子(真宗伝道ボックス)



成人式

～「言葉」と「写真」で祝う成人の日～

◆ 当日の様子

成人式の朝。かつて子ども会で育ち、この日成人を迎える青年たちが、お寺にやってきます。「市町村の式典に行く前にお寺に行く」が恒例になっていて、住職さんと坊守さんは内陣に打敷を整えてスタンバイ。スーツ姿・振り袖姿の青年たちと、「ひさしぶりにお寺に来たわ」「なつかしいなあ」「大きくなったね」と声を掛け合います。



【プログラム】

- ① 焼香
- ② 正信偈同朋奉讃
- ③ 法話
- ④ 写真撮影

◆ ～人となる～

「あなたがたは今日、成人式を迎えられました。公に言われる法律的な意味での『成人』となった、ということはとても大事です。しかしそれ以上に、あなたがたはこれから、人と人の関わりの中かで本当に生きていくということが始まります。あなたがいるから私がいる。私がいるからあなたもいる。私達は、私達を『ひと』だともっていますが、本当の『ひと』ってなんでしょう？『ひと』となっていく意味を、これからたくさんの人との関わりの中でじっくり考えていってほしいなあと思います。成人式、おめでとうございます。」

法話の後、本堂や境内で記念写真を撮り、みんなは町の成人式に行きました。

あらためて、その写真と式中の様子・子ども会時代の写真(初参式の写真など)を入れ込んだアルバムを一人ひとりにプレゼント。成人の素敵な記念になりました。

この様子は、寺報にも載り、門徒さんにも知っていただくきっかけとなります。お寺はみんなの場所。そういう気持ちが優しく伝わりますね。地域みんな子どもたちと歩む姿があります。



始めたきっかけ

子ども会で育った子どもたちに、節目節目でお寺に来てもらいたいという気持ちから。結婚の報告に来てくれたカップルも。子どもたちにとって、お寺は生きることの支えになってくれれば。

いろいろな子ども会

1

寺子屋子ども会

「子ども会を始めたいけど、何をすればいいかわからない」と悩んでおられる方、まずは本堂を子どもたちが宿題をする場所として開放してみてもどうでしょうか。

特に夏休みなど、子どもたちは多くの宿題を抱えています。「お寺で」「みんなと一緒に」ということがちょっとした手助けにもなったりするのではないのでしょうか。大人の指導がなくても、集まった子どもたちがお互いに教え合いながら宿題に取り組んだりもします。そこには自然と交流と出あいの場が開かれていきます。

慣れてきたら、宿題を見てあげながらお話をする、終わった後にみんなで遊ぶ時間を作る、最初と最後に御本尊に手を合わせるといったような工夫を考えてもよいかもしれません。

2

お泊り子ども会

本堂でのお泊り子ども会を行っているお寺があります。宿泊となると、「準備が大変そう」「空き時間に何をしよう」と尻込みしてしまう方も多かもしれません。

あるお寺で夏休みに行っている子ども会では、近くの子どもたちが自宅で夕食を済ませ、お風呂に入ってからお寺に集まってくるのだそうです。そして、みんなで花火をして遊んでから本堂で雑魚寝をします。寝具は各自持ち寄ったタオルケットと座布団なので、特別な準備は必要ありません。朝、お勤めをして、解散するということです。

手の込んだことをしなくても、子どもたちは、友だちと一緒にただお寺に泊まることを楽しみ、大切な思い出にしているようです。

3

里帰り子ども会

「お寺の周りに子どもがいない」という場合にはどうしたらいいのでしょうか。一人でも子どもがいれば、子ども会の開設は可能だと考えることができますが、0人ということになると開設することはできません。しかし「日頃は子どもがいないが、里帰り時期になると子どもがいる」という地域はあります。そこでお盆の時期や年末年始、連休などに子ども会を行ってはどうでしょうか。お寺も忙しい時期かもしれませんが、例えば30分程度で無理のない内容、時間帯を設定して考えてみてはいかがでしょうか。「勤行」と「記念品」だけでも十分だと思います。「子どもたちは退屈しないかな」と不安に思うかもしれませんが、「里帰り」という非日常の時間に、久しぶりに会ったおじいちゃんやおばあちゃんとお寺にお参りするということは、子どもたちにとって特別な時間になるのではないのでしょうか。

4

絵本ではじめる

本堂の片隅に絵本コーナーがあったらいいなあ。そんなお寺の風景を想像するのもよいですね。ゴロンと寝そべって読む子、友達に読んで聞かせる子、寄り集まって絵本を読んでいる子どもたち。そんなゆったりとした空間を作ってみてはいかがでしょうか。

もちろん子ども会で一緒に絵本を読み、お話の世界を一緒に楽しむのもよいですし、仏典童話などを使い仏さまの教えを伝えることもできるので、絵本は万能なアイテムと言えます。また、絵本から子どもたちとの会話が生まれたり、遊びのヒントになったりもします。

子ども会だけでなく、行事などのちょっとした休憩時間に親子で楽しむこともできます。法事先で子どもと出会ったら、絵本を使ってコミュニケーションするのもよいですね。絵本は、子どもとのつながりの可能性を大きく広げてくれます。

5

門徒さんとはじめる

住職や坊守だけではなく、ご門徒さんからの後押しではじまる子ども会もあります。お寺に常に関わっておられる方が、ぜひ子どもたちにもお念仏の心を伝えたいという思いで青少幼年センター主催の「ひとりからはじめる子ども会講習会」に参加し、住職さんと相談しながら子ども会を開催した方もおられます。

また、「子どもの頃はお寺によく遊びに行かせてもらっていました」という思い出話から、子ども会に顔を出し、昔ながらの遊びを教えてくださいませんか。

米や野菜づくり、勉強や遊び、または料理など、様々な得意分野を持つご門徒さんと一緒に、お寺での子ども会を盛り上げるのもよいかもしれません。

6

一緒にはじめる

子ども会を始めようと考えたとき、「子どもたちが集まるだろうか」ということは大きな不安要素になります。そこで、近隣のお寺や地域の子ども会と共催することを考えてみるのもいいかもしれません。子どもたちへの声掛けを自分一人で行わなくてもよくなるだけで、ずいぶん気持ち楽になります。その分、内容に関しては丁寧な打ち合わせが必要になりますが、「子どもたちがお寺や仏教に親しむご縁になるように」と少しおおらかな目的を設定することで、たとえ他宗のお寺でも会への共催を考えることができるのではないのでしょうか。



コラム ～子どもたちとともに～

子どもたちと関わりと向きをされている方々からメッセージをいただきました。
「私には何ができるだろう?」と考えるきっかけになればと思います。



日常の法務

毎月のお参り、年忌の法事のとき皆さんは何を考えてお勤めされますか? 私はつつい法事の後に何を話そうかなと考えてしまいます。そして、お話が終わるとホッとしながら出してくださったお茶を飲んでひと息ついて談笑しています。そのときに少し気をつけているのが、休日のお参り。年忌の法事などではその家族のお子さん・お孫さんがいたりするので、そのお子さんのことを聞くなどをしてお子さんが自然と話題の中に入ることができるように意識しています。そして、子どもの普段の何気ないことを聞いたりしながら会話をしています。その中で仏さまのお話をすることもありませんが、なるべく、子どもの話を聞くことにしています。

自分に意識、関心がある人がいることは嬉しいことです。特に子どもは自然と感じる力があると思います。ですので日常の法務などで意識して聞いたりしています。

聞く方も色々と話してくれると嬉しいです。

小原正寛 (岐阜高山教区 専念寺)



メール相談

「学校に疲れた」。この、たった一言のメールをくれたのは A さんでした。「一言で言うと、自分はバカ」と吐き捨てるようなメールをくれた B くん。「どうせ自分は何も出来ない」と期待に応えられない自分を知らせてくれたのは C くん。「親のシューキョーが、本当にウザい」と困っていることを教えてくれた D さん。そして、「なぜ、生きないといけないの?」とメールで問いかけた E さん。

ここで挙げている子どもたち (恐らく中学生前後) の声は、受け止めてくれる誰かを探して彷徨ってきた言葉たちです。私の所にメールを送らなければならないほどに彷徨ってきた言葉の一部です。コロナ下において、友だちを始めとした人と人との交わりが本当に薄まってしまい、言葉をきちんと投げかけていける相手を切実に探している子どもたちが激増しているように感じます。「聞く」。口を挟まず、ただ「聞く」。たったこれだけのことが、大人にとってなんと難しいことか。「受け止める」。「生まれてきて、良かったね」と存在そのものを丸ごと受け止める。難しいけれど、子どもたちは求めています。子どもたちは、待っています。

近藤祐教 (九州教区 西心寺)



お寺の図書館



お寺の図書館ときいて何を思い浮かべるだろう？専用部屋を持つお寺だろうか。別棟を持つお寺だろうか。いや、本堂の片隅に本棚があるだけでその役割を担うのだ。書架に囲まれたスペースに憧れがないとは言わないが、本堂に本棚がある、それだけでお寺での図書館は開館可能であり、それこそがなにより重要なのだ。現在では本堂や広間など場所はわかるが何箇所かに本棚を設置し、随時、蔵書を入れ替える作業を行っている。手はかかるが、本堂で子どもたちが、いや、大人たちも、絵本を広げたり話し込んだり、自由な時間を過ごす。その素晴らしさにはかえられない。雲の子文庫という家庭文庫から雲遊寺へと足を運び、子ども会へとつながる人もいれば、逆もまた然り。いろんな入り口があることで、いろんな人が集い、いろんな場となりうる、それが魅力だと感じている。

絵本のチカラを信じ、活動してきたことでつながり、広がる輪が、自然とそんな第三の居場所を生み出していると思えてならない。

井波春奈（九州教区 雲遊寺）



子ども食堂

一人ひとりが色を放つ子ども食堂。「子ども食堂」といっても貧困対策、居場所作り等、様々な開催形態があるが、ど真ん中は「子ども」。「ヤッホー！」と言いながら来る子。「こんにちは…」と恥ずかしそうに来る子。とりあえず、いろんな子が来る。一人ひとり違う。何十人来ても一人ひとり違う。同じ家庭にいても違う。好きなものも嫌いなものも、得意なこと苦手なこともやっぱり違う。受付で自分の名前をテープに書いて身体どこかに貼る。その書き方も違う。友達と同じように書く子もいる。でも、少し違う。食べ方も食べる順番も違う。なかなか見ていて興味深い。たまたま地域に「今」住んでいる一人の子が来る。その「今」は子どもたちだけの「今」ではない。全ての人々の過去も未来も含む「今」。一人ひとりが違うということは、そこに色が放たれている証。その色が社会の価値観と、他人と、自分自身とぶつかり合う。ぶつかり合いながらもそこに居ることができる場所を求めている。貧困対策も大事だ。でも、それ以上に放たれた色が受け止められ、世界が荘厳される居場所が子ども食堂として求められているのではないだろうか。

金子光洋（高田教区 最賢寺）



おてらおやつクラブ

「仏さまのお供えもので、子どもたちを笑顔にしてみませんか？」と呼びかけ、2ヵ月に一度「おてらおやつクラブ」を開催しています。

「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされるさまざまな「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動です。

2015年の冬頃、お寺のお供えとしていただくお菓子の行き先を悩んでいた時に、知人から「おてらおやつクラブ」の存在を知り、説明会に参加しました。

最初は、他宗派のお寺でお手伝いしていましたが、自分のお寺でもできないかと思い、関心のある門徒をはじめ、地域の民生児童委員や児童館に相談し、今では毎回8名程がお手伝いに参加してくれます。

仕分け作業後の茶話会では、貧困問題から発展し、昨年夫を亡くされた方の悩み相談など生き方まで語り合える雰囲気となり、いつの間にか安心できる居場所となってきました。

また、お寺の在り方についても考えるきっかけとなっています。

佐藤由徳（名古屋教区 寶行寺）



教材と参考図書を紹介

青少幼年センター 制作の教材 (無償教材)

リーフレット「ほとけの子」

「親鸞さま」「報恩講」「修正会」「彼岸会」「花まつり」
「お盆」「蓮如さま」「善財童子」「聖徳太子」



申込先 青少幼年センター



NEW



リーフレット 「いのちの教育はお寺から」Vo.1

日常の仏事場での
青少幼年教化の一助に。



(A3二つ折りサイズ)

申込先 青少幼年センター



リーフレット 「いのちの教育はお寺から」Vo.2

日常の仏事場での
青少幼年教化の一助に。
(A6二つ折りサイズ)



申込先 青少幼年センター



キャラクターシール (A6サイズ)



響くくん、蓮ちゃん。
あかほんくんのデザイン

申込先 青少幼年センター



子ども会結成旗

3行まで自由に文字を
決められます。
上山の際の目印にも。



申込先 青少幼年センター



誕生児念珠

初参りなどの記念品に。



申込先 青少幼年センター



子ども修了証

小中学校の卒業により
子ども会を修了する
子どもに。



※公布予定者名簿を
添付し、交付希望日
の二ヶ月前までに
申請してください。

申込先 青少幼年センター



子ども会情報紙『ひとりから』

子ども会での
法話の事例、
イベントレシビなど、
実際に役に立つ情報を
掲載しています。



申込先 青少幼年センター



プレゼント・記念品

子どもノート

あかほんくんのノート



【価格】100円
（税込110円）

申込先 東本願寺出版



ほとけの子風船(30個入)

お参り先で出会った
子どもさんに。
また記念品にも。



【価格】500円（税込550円）

申込先 東本願寺出版



キャラクターはなびら



【価格】500円（税込550円）

申込先 東本願寺出版



あかほんくん 消しゴム



【価格】100円
（税込110円）

申込先 東本願寺出版



キャラクターシール



【価格】100円（税込110円）

申込先 東本願寺出版



キャラクター定規



【価格】150円（税込165円）

申込先 東本願寺出版



キャラクター 下敷き



【価格】250円
（税込275円）

申込先 東本願寺出版



キャラクター鉛筆(2本入)



【価格】100円（税込110円）

申込先 東本願寺出版



キャラクター クリアファイル (100枚セット)

「ちかいのことば」
「あかほんくん」
「鸛恩くん」



【価格】8,000円（税込8,800円）

申込先 東本願寺出版



キャラクター クリアファイル (50枚セット)

「ちかいのことば」
「あかほんくん」
「鸛恩くん」



【価格】4,500円（税込4,950円）

申込先 東本願寺出版



キャラクター クリアファイル

「ちかいのことば」
「あかほんくん」
「鸛恩くん」



【価格】100円（税込110円）

申込先 東本願寺出版



キャラクターストラップ

「蓮ちゃん」「あかほんくん」「鸛恩くん」の3種類



【価格】300円（税込330円）

申込先 東本願寺出版



児連のクリアファイル

●大谷派児童教化連盟制作

「ちかい」がデザイン
されています。



【価格】300円（税込330円）

申込先 青少幼年センター



仏青トートバック

●真宗大谷派
仏教青年同盟制作

「合掌」を
モチーフにした
トートバックです。



【価格】3,000円（税込3,300円）

申込先 青少幼年センター



合掌人形『しんらんさま』

●大谷保育協会制作

陶器でできた
手のひらサイズの
かわいい
「しんらんさま」



【価格】550円(税込)

申込先 大谷保育協会



あかほんくん トランプ



【価格】700円
(税込770円)

申込先 東本願寺出版



日めくりカレンダー いのち輝く言葉 —大切なあなたへ—

いつも「こころ」のどこかに
おいておきたい
31のメッセージ。



【価格】550円(税込605円)

申込先 東本願寺出版



お参りグッズ (記念品)

腕輪念珠

パステルカラーのカラ
フルな腕輪念珠です。
かわり玉、茜、青、黄、
白、紫の6種。



【価格】(大)大人用 150円(税込165円)
(小)子ども用 120円(税込132円)

申込先 東本願寺出版



児連の勤行本入れ

●大谷派児童教化連盟制作

テキスト「いのち」が
ちょうど入る
大きさです。



【価格】450円(税込495円)
※10個以上注文の場合は単価400円に割引

申込先 青少幼年センター



どくろ念珠 ●真宗大谷派仏教青年同盟制作

ネパールの
ヤクの骨を使い、
觸腰をつないだ腕輪念珠。
「つながり」
「いっしょ」という
メッセージが
込められています。



【価格】500円(税込550円) ※2連は800円

申込先 青少幼年センター



○△□念珠 ●真宗大谷派合唱連盟制作

蓮如上人500回御遠忌
テーマ「パラパラでいっ
しょー差異(ちがい)を
みとめる世界の発見」を
もとに作成された腕輪
念珠です。



【価格】350円(税込385円)
※念珠作成キットもあります。

申込先 青少幼年センター



うでわ念珠 ●大谷保育協会制作

パステルカラー
(ピンク・ブルー)、
大人サイズと
子どもサイズが
あります。



【価格】200円(税込)

申込先 大谷保育協会



念珠セット ●大谷保育協会制作

白念珠と
緑色ドンス地
法輪紋のセットです。
(単品もあります)



【価格】400円(税込)
※白念珠120円、念珠袋280円

申込先 大谷保育協会



勤行 (教材)

あかほんくん 勤行集

正信偈同朋奉讃、
御文などを掲載。



【価格】200円
(税込220円)

申込先 東本願寺出版



おつとめちょう

●大谷保育協会制作

正信偈、念仏、
和讃などが
もりこまれています。
子どもから
お年よりまでお使い
いただけます。



【価格】100円(税込)

申込先 大谷保育協会



子ども おつとめ本 正信偈 (意識つき)



【価格】350円
(税込385円)

申込先 東本願寺出版



真宗 子ども手帳

お寺の子ども会に。



【価格】250円
(税込275円)

申込先 東本願寺出版



大谷スカウト子ども手帳

●大谷スカウト
連合協議会制作

低学年のボーイスカウト・
ガールスカウト用の手帳。



【価格】500円
(税込550円)

申込先 東本願寺出版



大谷スカウト手帳

●大谷スカウト
連合協議会制作

大谷ボーイスカウト・
ガールスカウト用の手帳。



【価格】600円
(税込660円)

申込先 東本願寺出版



教材

**ひとりからはじめる子ども会
ゲーム集**

親しみやすい45通りの
ゲームを掲載。



【価格】700円
(税込770円)

申込先 東本願寺出版



花まつり

お釈迦さま誕生に
ついてなど、
花まつりに活用できる
小冊子です。



【価格】150円
(税込165円)

申込先 東本願寺出版



布製「ちかい」

「ちかいのことば」の
タペストリーです。



【価格】1,500円
(税込1,650円)

申込先 東本願寺出版



八女ちょうちん

●大谷保育協会制作

自由に絵を描いて、
お盆・夜間保育の
行事などに
お役立てください。



【価格】180円(税込)

申込先 大谷保育協会



テキスト「いのち」

●大谷派児童教化連盟編・発行

三帛依文・正信偈・御文の
現代語訳などを掲載。お釈
迦さま、親鸞さまの深い願
いを一緒に聞いていくため
に子ども会で使っていただ
けるテキストです。

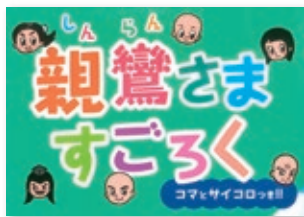


【価格】600円(税込660円)
※20冊の注文につき1冊割引

申込先 青少年センター



親鸞さますごろく



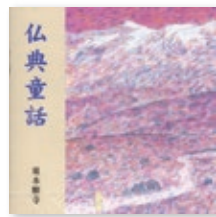
【価格】600円(税込660円)

申込先 東本願寺出版



親鸞さまの生涯を
すすみます。
楽しく遊んでみながら
学びます。

CD 『仏典童話』



【価格】1,500円(税込1,650円)

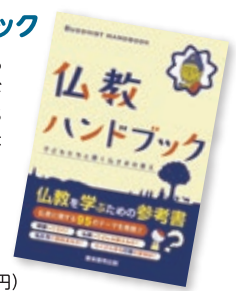
申込先 東本願寺出版



『仏典童話I』に収録の
10話の朗読を収録。

仏教ハンドブック

仏教の教えに関する
さまざまなキーワード
について、子どもたち
にお話できるように
「例話」を掲載。



【価格】1,800円
(税込1,980円)

申込先 東本願寺出版

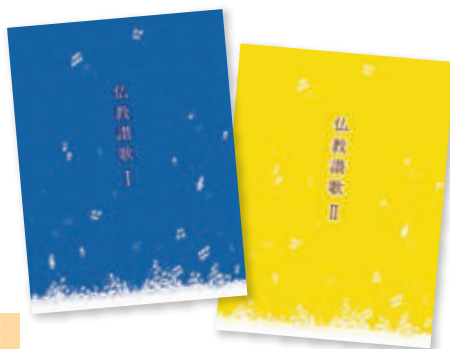


楽譜集『仏教讃歌I・II』

おなじみの仏教讃歌に加え、宗祖親鸞聖人750
回御遠忌ソングも収録した「仏教讃歌I」、子ども
向けの仏教讃歌を集めた「仏教讃歌II」。巻末に
は法要次第例なども掲載。共に全曲伴奏譜付き
です。CDと合わせて活用ください。

【価格】各1,200円(税込1,320円)

申込先 東本願寺出版



CD 『仏教讃歌I・II』



【価格】各1,500円(税込1,650円)

申込先 東本願寺出版



DVD

親鸞への道・八太のともだち

●真宗大谷派
視聴覚伝道委員会
企画・制作

【価格】2,000円
(税込2,200円)

申込先 東本願寺出版



DVD

アニメでふれる ほとけさまの ところ

●四衛亮 監修

【価格】4,000円
(税込4,400円)

申込先 東本願寺出版



DVD

アニメでふれる しんらんさまの 問いかけ

●四衛亮 監修

【価格】3,500円
(税込3,850円)

申込先 東本願寺出版



DVD

七高僧 ものがたり

【価格】2,500円
(税込2,750円)

申込先 東本願寺出版



DVD

仏典童話

●渡邊愛子 原作

【価格】3,000円
(税込3,300円)

申込先 東本願寺出版



法話 (教材)

絵ものがたり正信偈

●浅野執持 文、
市角荘玄 絵

【価格】1,300円 (税込1,430円)

申込先 法蔵館



子どものための 正信偈

●青柳田鶴子 著

【価格】200円 (税込220円)

申込先 法蔵館



子供のための 法話

●井伊各量 著

【価格】600円 (税込660円)

申込先 法蔵館



子どもに 聞かせたい法話 —心に響く 3分間法話—

●仏の子を育てる会 編集

【価格】1,000円 (税込1,100円)

申込先 法蔵館

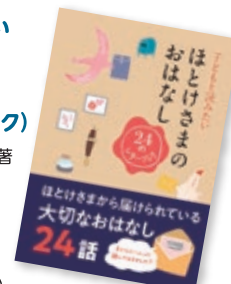


子どもと読みたい ほとけさまの おはなし (24のレターブック)

●藤祐樹ほか23名 著

【価格】650円
(税込715円)

申込先 東本願寺出版



安全関係 (教材)

ニュー・アウトドア 救急ハンドブック 改訂版

●小浜啓次 監修、
BE-PAL編集部 編集

【価格】2,700円 (税込2,970円)

申込先 小学館



レスキュー・ ハンドブック 増補改訂新版

●藤原尚雄・
羽根田治 著

【価格】1,200円 (税込1,320円)

申込先 山と溪谷社



東本願寺発行
の絵本

だあれ?
だれなの?

●今森光彦 写真・文



【価格】1,200円
(税込1,320円)

申込先 東本願寺出版



だいすき
おじいちゃん

●きらあかり 作・絵



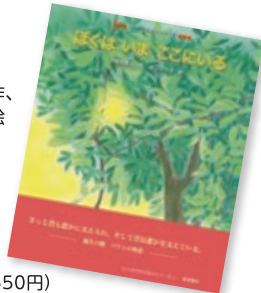
【価格】1,000円
(税込1,100円)

申込先 東本願寺出版



ぼくはいま
ここにいる

●佐賀枝夏文、
成広のり子 絵



【価格】1,500円
(税込1,650円)

申込先 東本願寺出版



君はそのままいいんじゃないか

●サガエさん 作、100%ORENGE 絵



【価格】350円 (税込385円)

申込先 東本願寺出版



親鸞聖人

●小川一乗 文、
畠中光享 絵



【価格】1,500円
(税込1,650円)

申込先 東本願寺出版



しんらんさま
み〜つけた!

●ひがしはらかつえ 絵



【価格】1,500円
(税込1,650円)

申込先 東本願寺出版



にんぼう
いただきます
のじゅつ

●のしざやか
作・絵



【価格】800円
(税込880円)

申込先 東本願寺出版



わかってたまるか!
ウチらの言い分

●サガエさん 聞き手、
100%ORENGE 絵



【価格】1,200円 (税込1,320円)

申込先 東本願寺出版



ぼくれっしゃ

●つきおかゆみこ
作・絵



【価格】1,200円
(税込1,320円)

申込先 東本願寺出版



しんしゅうアニメえほんシリーズ

①しんらんさま

●東本願寺出版 文、
林佳里 絵



【価格】600円
(税込660円)

申込先 東本願寺出版



しんしゅうアニメえほんシリーズ

②おしゃかさま

●東本願寺出版 文、
ヴァニティカパー 絵



【価格】600円
(税込660円)

申込先 東本願寺出版



それ
ちよーだい!

●うさ 作・絵



【価格】1,200円
(税込1,320円)

申込先 東本願寺出版



しんらんさま

●やまだみどり 絵



【価格】800円
(税込880円)

申込先 東本願寺出版



れんによさま

●水野二郎 絵、
佐賀枝弘子 文



【価格】800円
(税込880円)

申込先 東本願寺出版



おしゃかさま

●加藤義明 絵、森下等 文



【価格】800円
(税込880円)

申込先 東本願寺出版



ててて

●吉本隆子 絵、祖父江文宏 文



【価格】500円
(税込550円)

申込先 東本願寺出版



よるになったらおやすみなさい

●椎野利一 絵、祖父江文宏 文



【価格】500円
(税込550円)

申込先 東本願寺出版



仏典童話 I・II

●渡邊愛子 文、畠中光享 絵



【価格】各1,200円
(税込1,320円)

申込先 東本願寺出版



英訳仏典童話

●渡邊愛子 文、横河頭一 訳、畠中光享 絵



【価格】800円
(税込880円)

申込先 東本願寺出版



聞法・学習 (書籍)

なぜ浄土なのだろうか

●中川皓三郎 著



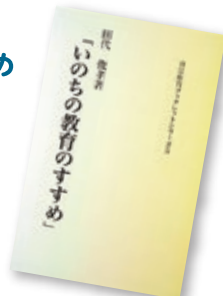
【価格】無償

申込先 大谷保育協会



いのちの教育のすすめ

●田代俊孝 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



真宗保育の名のもとで育てたい子ども・人間

●加藤守 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



あそび

●宮城頭 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



敬うとは何か

●加藤祐伸 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



宗祖としての親鸞聖人に会う

●池田勇諦 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



真宗と保育

●一案真 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



いのちありがとう

●真城義磨 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



誕生

●三明智彰 著



【価格】無償

申込先 大谷保育協会



真宗保育をデザインする

●富岡量秀 著



【価格】250円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

唯我独尊の教え
—誕生の意味—

●吉元信暁 著



【価格】240円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

「する」から「ある」へ
—養育論の試み—

●芹沢俊介 著



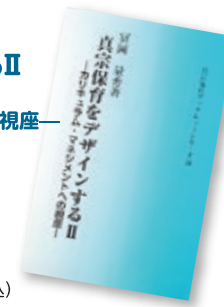
【価格】350円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

真宗保育をデザインするII
—カリキュラム・マネジメントへの視座—

●富岡量秀 著



【価格】300円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

サガエさんの「講義ノート」
—真宗保育論—

●佐賀枝夏文 著



【価格】250円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

鼎談 真宗保育の源流をたずねて

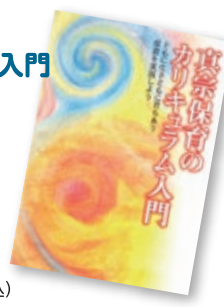


【価格】200円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

真宗保育のカリキュラム入門



【価格】530円(税込)

申込先 大谷保育協会

保

真宗保育カリキュラムVol.1

【価格】1,500円(税込)

真宗保育カリキュラムVol.2

【価格】1,000円(税込)

真宗保育カリキュラムVol.3

【価格】1,000円(税込)



申込先 大谷保育協会

保

アイヌ民族文化と子育て
—国際先住民年に考える—



【価格】無償

申込先 大谷保育協会

保

Q&Aから考える保育と子育て

●霨見美智子 著



【価格】200円(税込220円)

申込先 東本願寺出版

出

いっしょに大きくなあれ
はじめて真宗保育にであう本

●真宗保育ハンドブック編集委員会 編



【価格】1,200円(税込1,320円)

申込先 東本願寺出版

出

■各教材の申込先

青 青少幼年センター	お申し込みは1ヶ月前までに	TEL. 075 - 354 - 3440	東本願寺 青少幼年センター	検索
出 東本願寺出版	お申し込みは1ヶ月前までに	TEL. 075 - 371 - 9189	東本願寺出版	検索
保 (公社)大谷保育協会		TEL. 075 - 371 - 9207	大谷保育協会 グッズ	検索

※なお、[申込先]の記載のない一般書籍は、お近くの書店または、インターネットショップでお求め下さい。
(価格・仕様等は2023年5月現在のもので)

子どもの 権利条約

「子どもの権利条約」(1989年、第44回国連総会で採択された。日本は1994年に批准。)は、戦争が子どもに大きな犠牲を強いることへの危惧から発案され成立しました。私たちは国際的な潮流の中で、子どもが置かれている厳しい状況を学びつつ、その「権利」と大人の「責任」を「生きることの平等と尊厳を守る」ために、身近な問題から考えていくように心がけたいものです。

くわしくは、岩波ジュニア新書270『ハンドブック 子どもの権利条約』(岩波書店)、『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小口尚子・福岡鮎美(小学館)などを参照してください。

子どもが主人公になっているか

子ども会を続けていく上で大切なことは何でしょうか。それは、「子どもが主人公になっているか」ということです。子どもを「お客様」にしてはだめなのです。子どもが「子ども会」でどれだけ「主人公」になっているかをチェックするために、アメリカの心理学者ロジャー・ハートが提唱する「参画のはしご(階段)」を参考にして、自分がはじめた子ども会の現状をふりかえてみましょう。

さて、私が開設した子ども会は今どのようになっているでしょうか。「子どもとともに遊び、子どもとともに学ぶ」そのような子ども会になることをめざして、時にはふりかえてみましょう。なお、これは「子どもの権利条約」による「大人と子どもの共同参画」の実現をめざすチェック・ポイントとしても知られています。

参考：ロジャー・ハート『子どもの参画—コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際—』(ユニセフ版)／萌文社

参画のはしご

第1段階 「あやつり」

大人が何もかも企画立案し運営して、子どもを思いどおりに動かすこと。

第2段階 「飾り」

大人の目的達成のために子どもを「飾り」にする利用主義。

第3段階 「みせかけ」

いかにも子どもを主体にしてやっているかのようだが、運営の主導権はあくまで大人が握っている。

第4段階 「役割・情報」

大人が子どもに「役割」を与え、一定の情報を伝達して参加させる。

第5段階 「相談・情報」

大人が子どもに「相談」し、一定の情報を与えて着手する。

第6段階 「決定」

大人が着手し、子どもとともに「決定」する。

第7段階 「指導」

子どもが企画立案し、大人の「指導」を受ける。

※第7から8段階になって初めて「参画」というると、ロジャー・ハートは指摘しています。

第8段階 「着手・決定」

子どもが企画立案に「着手」し、大人とともに「決定」する。



あ と が き



このたび、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要(2023年厳修)の青少幼年教化事業として、子ども会開設の手引き『ひとりからはじめる子ども会』を改訂しました。

この冊子は、青少幼年センター準備室において2004年7月に初めて発行されました。ひとりの子どもの丁寧に出あい、お寺が子どもたちの居場所となり、子ども会を“わたしひとりから”無理なくはじめることを願いといた「子ども会開設の手引き」です。発刊以来、この手引きをテキストにした「ひとりからはじめる子ども会講習会」を京都や各地で開催し、子ども会を担う人が誕生しています。

青少幼年センターが2010年7月に設置され、子ども会情報や教化教材も徐々に増え、手引きも2013年10月にデザインや事例などを改訂しました。その後も、教材の更新などで2014・2017・2019年と3回の改訂を経てきました。

今回の改訂は、改めてデザイン・内容を見直し、伝えたいことをより読みやすく、コラムも設けて子ども会の事例や役立つ情報を紹介しました。

青少幼年教化は、宗門にとって第一にすすめていくべき取り組みです。青少幼年と共に歩もうとする人はもちろん、子ども会の運営に行き詰まり、どうしていいのか迷っている人も、この手引きを参考に「青少幼年と共に悩み共に生きる」姿勢の原点に立ち戻り、一步を踏み出していただければと願っております。

そして、ぜひ各地で開催されている「ひとりからはじめる子ども会講習会」へご参加ください。宗祖親鸞聖人八百回忌(2061年厳修)の頃には「真宗大谷派は、子ども会活動が大変活発な教団」という状況を是非とも作りだしていきたいと考えています。

この冊子が子ども会開設の一助となることを願っています。

青少幼年センターが取り扱う教材・記念品は、
真宗大谷派寺院・教会専用サイトでご覧いただけます。

<https://www.higashihonganji.or.jp/ohtaniha/>

「寺院・教会専用サイト」→「各種物品販売」



真宗大谷派の
青少幼年教化の
情報をお届けします。



※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。
<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>

子ども会開設の手引き 『ひとりからはじめる子ども会』

2004年 7月1日	初版	第1刷発行
2013年10月1日	改訂第1版	第1刷発行
2014年 1月1日	改訂第2版	第1刷発行
2017年 5月1日	改訂第3版	第1刷発行
2019年10月1日	改訂第4版	第1刷発行
2023年 6月1日	改訂新装版	第1刷発行

発行者 ● 木越 渉

発行所 ● 真宗大谷派宗務所

編集 ● 真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター

〒600 - 8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199

TEL:075 - 354 - 3440 FAX:075 - 371 - 6171

E-mail:oyc@higashihonganji.or.jp

デザイン ● ㈱ソールボックス



真宗大谷派 青  幼年センター

青少幼年センターホームページ

東本願寺 青少幼年センター

検索 



青少幼年センターのホームページでも、「子どもとあそぶ」のコーナーなど子ども会に役立つ各種情報を発信しております。ぜひ一度お立ち寄りください。

その他、(公社)全国子ども会連合会のホームページ
(<https://www.kodomo-kai.or.jp/>) なども参考になります。